「世界の産業用インクジェットプリンター市場2022年－2031年：種類別（オンデマンドインクジェットプリンター）、包装タイプ別」調査レポート（市場規模・動向・予測）を取り扱い開始しました

2022年10月4日
株式会社マーケットリサーチセンター

株式会社マーケットリサーチセンター（本社：東京都港区、世界の市場調査資料販売）では、「世界の産業用インクジェットプリンター市場2022年－2031年：種類別（オンデマンドインクジェットプリンター、コンティニュアスインクジェットプリンター）、包装タイプ別（一次包装用印刷、二次包装用印刷、三次包装用印刷）」調査資料の販売を2022年10月4日
に開始いたしました。産業用インクジェットプリンター市場規模、動向、予測、関連企業の情報などが盛り込まれています。

■レポートの種類：グローバル市場調査レポート
■レポートのタイトル：世界の産業用インクジェットプリンター市場2022年－2031年：種類別（オンデマンドインクジェットプリンター、コンティニュアスインクジェットプリンター）、包装タイプ別（一次包装用印刷、二次包装用印刷、三次包装用印刷）
■英文タイトル：Industrial Inkjet Printers Market （Type: On Demand Inkjet Printer, Continuous Inkjet Printer; Packaging Type: Primary Packaging Printing, Secondary Packaging Printing, Tertiary Packaging Printing） - Global Industry Analysis, Size, Share, Growth, Trends, and Forecast, 2022-2031
■発刊日：2022年9月26日
■出版社：Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）
■レポート形態：PDF（Eメールによる納品）

■主な掲載内容

インクジェットプリンターは、紙やプラスチックなどの基材にインクを噴射し、デジタル画像を再現するコンピューター印刷機の一種です。インクジェットプリンターは、紙やプラスチックなどの基材に直接触れることなく、インクを滴下して印刷する技術です。異なる色のインクを使用したドットを組み合わせることで、写真並みの画像を作成することができます。また、コーティングや機能性材料の塗布、微細構造体やマクロ構造体の形成にも利用できます。インクジェットプリンターは安価で、交換が比較的容易な液体インクを使用します。また、高画質なカラープリントや高速なモノクロプリントも可能です。品質、速度、価格のバランスが良いことから、コンシューマー向け、家庭向けのプリンターのデファクトスタンダードとなっています。産業用プリンター機は、業種によって用途が異なります。産業用インクジェットプリンターが最も多く使用されているのは、一次包装である。また、衣料用印刷機、プラスチック印刷機、金属印刷機などの採用が進んでおり、産業用インクジェットプリンターの世界市場に参入するメーカーにとって、潜在的なビジネスチャンスとなることが予想されています。

デジタル印刷は、少量の印刷や包装・ラベル用途のグラフィックをコスト効率よく作成することができます。印刷版も不要で、ジョブの変更も瞬時に行えます。小売、化学、製薬、食品、物流、セキュリティ、繊維、サービスなどの業界では、インクジェットプリンターが必要とされています。このハイブリッド機は、インクジェット技術とさまざまなフレキソ印刷の構成を兼ね備えています。さらに、デジタルテキスタイルプリンターは、様々な種類の天然繊維や合成繊維に直接プリントできるように設計されています。その効率的なプリント機能により、生産スピードと生産量を加速させます。綿、シルク、ウール、混紡など、さまざまな衣料品やテキスタイルの用途に対応するデジタルテキスタイルプリンターは、産業用・商業用のテキスタイル印刷に最適なソリューションです。ディスパージョン、顔料、反応性インクなど、さまざまな水性インクを使用して、高い色再現性で良好な印刷品質を実現します。デジタル捺染機、布用捺染機、ポリエステル捺染機、綿用捺染機など、最終用途の産業で幅広く使用されています。インクジェットプリンターには、モノクロとマルチカラーのオプション、ウェブ幅の選択、UV硬化システム、プレコート、プリント、オーバーコート用のシングルカラーロータリーフレキソヘッド、インライン変換および仕上げシステムなどの新機能があります。新技術は、モノクロとカラーの両方のデジタルエンジンを統合し、セットアップの効率、廃棄物の削減、エネルギーと運用コストの削減、システム制御の改善を重視した特定のアプリケーションに適合するさまざまなオプションを提供することができます。産業用プリンターの売上高予測によると、新技術の導入により、世界市場で産業用ラベルプリンターのビジネスチャンスが生まれています。
キヤノンなどのメーカーは、FINE（Full-photolithography Inkjet Nozzle Engineering）技術を踏襲しています。このインク吐出機構とFINEプリントヘッド製造技術により、キヤノンは画質、階調表現、画像安定性の大幅な向上を実現しました。高品質な写真印刷を実現するためには、微細なインク滴と正確な噴射が不可欠です。キヤノンのFINEプリントヘッドは、ヒーター下のインクを一挙に噴射させ、効率よく性能を発揮させます。また、インク滴の配置速度を従来の1.5倍以上に高速化し、プリントヘッドの移動による気流の乱れの影響を受けにくくし、配置精度を向上させることが可能になりました。これらの進化は、産業用インクジェットプリンターの新たなトレンドとなり、全世界の産業用インクジェットプリンターの需要を牽引しています。

食品・飲料メーカーは、販売店が要求する賞味期限やロットコードなどのコードを使用し、金属プレスや木材などのメーカーは、ロット番号やバーコードを使用して、トレーサビリティの確保や偽造の防止を図っています。処方薬や一般用医薬品は、FDAの規制に準拠するため、処方薬表示規則またはOTCモノグラフのいずれかに従ってラベルが貼られます。サーマルインクジェット（TIJ）やコンティニュアスインクジェット（CIJ）は、さまざまな種類の基材に一貫して確実にマーキングできるため、製造業者はこれらのコードの作成にインクジェットプリンターを利用することが多いようです。製品名、製造者名と所在地、正味量などの情報は、連邦取引委員会の「公正

包装・表示法」に基づいて要求されています。これは、すべての消費者向け家庭用品の表示要件を概説した規制です。すべての包装された食品と飲料は、罰金の下にこれらの情報を表示することが義務付けられています。食品・飲料メーカーは一般的に、生産ラインに産業用インクジェットプリンターを使用することで、これらの要件を満たしています。
さらに、すべてのパーソナルケア製品および化粧品は、FTCの公正包装・表示法の対象となります。化粧品メーカーは FDA の食品・医薬品・化粧品法（FD&C
法）にも従わなければなりません。医薬品はFDAが指定した製品情報を記載することが義務付けられています。化学薬品製造業者は、FD&Cだけでなく、化学薬品によっては連邦危険物法と同様にいくつかの他の規制の対象となります。医薬品、化粧品、化学品などのメーカーは、汎用性、信頼性、多様な基材への印刷能力から、これらの要件を満たすためにインクジェットプリンターを使用するのが一般的です。このように、産業用インクジェットプリンターは、世界的な最終用途産業の拡大とともに、その活躍の場が広がっていくと思われます。

アジア太平洋地域は、予測期間中、産業用インクジェットプリンターの世界市場の主要なシェアを占めると予想されます。これは、同地域の発展途上国における都市化・工業化の急速な進展が主な要因です。BRICS諸国（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）は、2020年の世界の化学品輸出総額の約50.2%を占めています。中国は世界最大の化学品生産国であり、2020年の世界の化学品輸出総額の44.6%を占めています。中国は、技術革新と貿易をリードし、石油・化学産業の「超大国」になりつつあります。これにより、同地域の産業用プリンターの成長の見通しが立つと期待されます。さらに、北米の産業用プリンターの成長機会は、FDAに従ってラベリングと印刷の規制を維持するためにメーカーを必要とする厳格な政府の規制に起因することができます。このことも、北米における産業用インクジェット市場の成長を後押しすると期待されています。

■レポートの詳細内容はこちら
https://www.marketresearch.co.jp/data1/industrial-inkjet-printers-market-type-on-demand-inkjet-printer/

■レポートに関するお問い合わせ・お申込みはこちら
https://www.marketresearch.co.jp/contacts/

■調査会社Transparency Market
Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）について
https://www.marketresearch.co.jp/Transparency－Market－Research/
株式会社マーケットリサーチセンターはTransparency Market
Researchの日本での正規販売代理店です。

■株式会社マーケットリサーチセンターについて
https://www.marketresearch.jp
主な事業内容：市場調査レポート販売、市場調査サービス提供
本社住所：〒105－0004 東京都港区新橋1－18－21
TEL：03－6161－6097 FAX：03－6869－4797
マーケティング担当 marketing@marketresearch.co.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com